

## 事業計画書

事業名	街中だがしや楽校 2017inぬまづ
場所	沼津市 仲見世商店街・新仲見世商店街 地内
実施予定期間	平成 29 年 3 月 5 日(日)
日程	実施項目・作業項目
	<p>※ 実施内容、実施場所、参加対象、人員配置、役割分担など、スケジュールも併せてわかりやすく記載してください。イベントや研修会等の行事日程だけでなく、事業期間すべてにわたる実施内容を記入してください。(打合せ・会議・資料作成・参加者募集・準備・検討会など)</p> <p>●事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キッズハローワークで仕事を探す→お仕事体験をする→仮想通貨のお駄賃(報酬)をもらう→だがしやマーケットで駄菓子と交換</li> <li>・ワークショップ体験→仮想通貨をもらう→だがしやマーケットで駄菓子と交換</li> <li>・あきんど体験(予約制)・・・仕入れや販促等の店舗での事前体験</li> </ul> <p>※仮想通貨の配布、駄菓子と交換できるのは子どものみ</p> <p>●実施場所</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仲見世商店街・新仲見世商店街</li> </ul> <p>●参加対象</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お仕事体験・・・沼津市および近隣市町の未就学児～小学生</li> <li>・ワークショップ・・・子どもから大人まで</li> </ul> <p>●人員配置(当日スタッフ)・当日役割分担</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本部3人、出店ブース担当3人、ワークショップ担当3人、警備担当1人(外部より7名)、駐車場係1人、ボランティア担当1人(高校生・専門学校ボランティアスタッフ約15名)、記録係1名、キッズハローワーク担当5人、ステージ担当3人、だがしやマーケット担当2人</li> </ul> <p>●開催までのスケジュール</p> <p>2015年10月～2016年3月 実行委員会役員ミーティング開催(計7回)</p> <p>2016年4月19日 全体会議 第1回 顔合わせ・趣旨説明・事業内容説明</p> <p>6月20日 全体会議 第2回 役割分担作業</p> <p>8月20,21日 三島のだがしや楽校 前日準備・当日お手伝い</p> <p>9月10月 後援依頼、協賛金、出店、ワークショップ等募集、各担当打ち合わせ</p> <p>11月12月 ポスター・チラシ作成。広報ぬまづ2/15号掲載依頼。商店街との会合</p> <p>2017年1月2月 チラシ全校配布(1月頃)、当日用チラシ作成、最終調整</p> <p>3月4,5日 前日準備会場設営、開催</p>
事業効果	<p>※ 事業の効果を記載してください。</p> <p>ソフト部門のステップアップ型事業・ハード部門4事業については、事業効果に対して、客観的な評価ができるよう、成果指標と数値目標を設定するなど、その検証方法を必ず明記してください。</p> <p>三嶋大社・えびす参道・大社の社で毎年開催されている街中だがしや楽校は、毎年6000人～7000人もの人が訪れるほど、人気が高い。三島市民だけでなく、近隣の市町からの参加者も多い。</p> <p>この「街中だがしや楽校」は認知度があるため、沼津市の中心市街地周辺の商店街で開催すれば、沼津市だけでなく近隣市町から多くの方が訪れることが予想できる。これにより商店街が新たな客層を獲得する契機とし、中心市街地の今後の活性化につなげることができる。また地元の高校や専門学校の生徒、地域で活動している子育てママ等の団体に協力を求めることによる地域内の連携を推進する効果のみならず、三嶋だがしや楽校と連携を図ることにより広域的なまちづくりに発展することができる。</p>

<p>公益性</p>	<p>子ども達に商品の価値や働くことの意義、楽しさを、大変さを実感してもらい、子ども達の創造性や生きる力を育む。</p>
<p>発展性</p>	<p>初めて沼津で開催する事業なので、事業に対して協賛してくれる企業や出店が多く確保しにくい。補助金によって、広報活動や事業の実施にかかる経費などの初期投資部分に支出しやすく、初回だからといって事業の規模を縮小しないで実行できる。</p>
<p>地域性</p>	<p>地元の高校や専門学校の生徒、地域で活動している子育てママの団体、三嶋のだがしや楽校運営協議会等と連携をはかり事業を行う。  地域資源である沼津塩、戸田塩、地域人財であるスポーツや芸能、まちの識者等を活用したワークショップを行う。  中心市街地の商店街で子どもたちにお仕事体験をしてもらうことによって、商店街組合の方々との連携が図られ、地域の大人が子どもを育てる環境がうまれる。  また、三島のだがしや楽校と連携することにより、広域的な事業を展開していく。</p>
<p>必要性</p>	<p>かつては、それぞれの地域で小さな子どもでも歩いていける範囲に駄菓子屋が存在していた。子どもたちは家庭のお手伝い等で得たお駄賃を手に駄菓子屋を訪れ、思い思いの商品を買いながら、お店の人とコミュニケーションやお金の使い方を身に付けていきました。そこでは学校では教えてくれないことを学べる、子どもたちの貴重な学びの場であったといえます。しかし今日では、地域から駄菓子屋が消え、そのような学びの場所も失われてしまいました。  だがしや楽校では、駄菓子屋を取り巻く環境を街中に再現し、かつてあったような子どもたちの学び、交流の場を提供します。</p>
<p>先導性</p>	<p>中心市街地の商店街にて さまざまなイベントが開催されているが、子どもたちを主対象とした学び、交流の場を提供する事業で継続的におこなわれていく計画の事業は初である。</p>
<p>継続性</p>	<p>この事業を継続していくために、昨年より会合を重ね一年がかりで準備に取り組んでいる。子どもたちにだがしや楽校を楽しみにしてもらえるように沼津らしい事業を開催し、実績を積み上げることで多くの方に支援をもらう。  そして、ゆくゆくはだがしや楽校を経験した子どもたちが成長して今度はスタッフとして活動してもらう環境を作り上げていく。</p>